

刊行にあたって

編集委員長
玉野 和志

せたがや自治政策研究所の活動の一環として、2008 年度より刊行しております学術機関誌『都市社会研究』もおかげさまで第 9 号を刊行することとなりました。特集に寄稿していただいた先生方をはじめとして、論文、研究ノート、活動報告に投稿いただいた皆様のお陰によるものと存じます。また、編集にご協力いただいた編集委員会の委員や査読を担当された方々、編集委員会をサポートしていただいている事務局にも、心より厚く御礼申し上げます。

本誌刊行の目的は、一つには学術研究の発表・発信、またそれを基礎とする政策形成の基盤づくりにあります。いま一つの目的は、実践的な内容を持ち、公共の利益に資するような研究の発表・発信の場とすることにあります。従来 of 学術研究誌にはみられない実践的かつ公共的な性格を併せ持つ、地域発の学術機関誌をめざして発刊したものです。

今回の本誌全体の特集テーマは「現代都市における家族の困難」としています。更に、今回は特集テーマに関連して、研究特集として「世田谷における子どもの進学と母親の社会参加」についても取り上げております。

近年、私たちを取り巻く社会情勢や個人の価値観、ライフスタイルの多様化に伴い、家族のありようも多様化しております。例えば、ここ数年にわたる未婚率の上昇や、単身世帯の増加などにより、家族形態の変化を窺い知ることができます。また、世田谷区では、全国的な少子化傾向とは異なり、年少人口が増加するという特徴があります。こうした状況のもと、未婚男性の社会的孤立や子ども・若者の貧困など、かつて我々の社会が想定していなかった家族問題が表面化しています。

本号の特集には、世田谷区が大都市東京の一自治体として、今後これらの課題にどう取り組んでいくべきなのかという意図が込められています。

研究者や専門家、自治体職員の方々はもちろんのこと、多くの世田谷区民の方々に本誌を手にとっていただきたいと願っております。さらに、都市社会を研究対象とする全国の若手研究者が投稿論文の本誌への掲載を名誉と考えるような機関誌に育っていくよう願っています。

最後に、今後とも投稿者、読者の方々をはじめ、皆様のご理解ご協力を賜りますようお願いいたします。第 9 号刊行のご挨拶とさせていただきます。

